

目次

刊行のことば 15

昭和学院及び中学校・高等学校

第一章 学校体系の形成期

第一節 昭和学院の揺籃期 20

- 一、教職は天職なり 20
 - 二、昭和女子商業学校の誕生 21
 - 三、昭和女子商業学校の学則 21
 - 四、感激の日
——第一回入学式—— 22
 - 五、木の香の薫る学び舎の落成式 23
- 第二節 高等教育への出発 26
- 一、新学制への移行 26

第二章 教育実績の確立期

一、風雪越えて薫るこの日 27

第一節 学校法人昭和学院生まれる 30

- 第二節 青空にこだまする祝歌 30
 - 一、青年期を迎えた学院 30
 - 二、応援歌の誕生 31
 - 三、創立十五周年記念式典と記念事業 31
- 第三節 よろこびに湧く 34
- 第四節 栄誉を永遠に 36

第五節 溢れる力に豊かな成長 37

- 一、成人を迎えた学院 37
- 二、青空にきらめくプール 40
- 三、創立二十周年記念式典挙行と大講堂 41

第三章 教育環境の整備期

第一節 大いなる期待を双肩に 44

第二節 中高本館新築落成 45

第三節 学院長の欧米教育視察 46

第四節 偉大なる業績を残して 46

- 一、創立者伊藤友作先生逝く 46
 - 二、故理事長夫人
——学院長母室——逝く 48
 - 三、創立者の遺志を受け継いで 49
 - 四、伊藤一郎先生昭和学院理事長に就任 50
- 第五節 創立二十五周年記念式典及び
記念事業 50

- 一、記念式典挙行 50
- 二、高く聳える中学館 51

- 三、緑陰をつくる大庭園 53
- 四、語学力を伸ばすしし施設 54

第六節 美しい白樺林の中に 54

——八ヶ岳山荘——

第七節 校訓「明敏謙讓」を象徴して 55

——ブロンズ少女像成る——

第八節 教育の近代化の試み 56

- 一、開花した視聴覚教育 56
- 二、商業教育の体質改善 57
- 三、教育相談室新設 58

第九節 公開研究会に学ぶ 58

- 一、千葉県私生活指導部会開催 58
 - 二、千葉県高等学校視聴覚教育研究発表会開催 59
 - 三、千葉県私中高図書館教育研究会開催 61
- 第十節 秋空に広がるグラウンド 62
- 一、総合グラウンド完成 62
 - 二、開場式挙行 63

第十一節 新しい教育施設の整備 64

一、	拡充された新教育施設の建設	64
二、	新築校舎の落成式挙行	68
第十二節	創立三十周年記念	69
一、	中高校舎の建設	69
二、	創立三十周年記念式典挙行	70
第四章 教育内容の発展期		
第一節	教育施設設備の充実	72
一、	放送センター開局	72
二、	L I教室の増設	73
三、	医務室の整備	73
第二節	中高一貫教育の充実	74
一、	「一貫教育研究」はじまる	74
二、	本校における生活指導の一貫教育	74
第三節	県史に残る「千葉県の先覚」	75
第四節	教育充実計画の実現	76
一、	総合グラウンドの拡充	76
二、	充実した理科・体育施設	76
第五節	躍進めざましい運動部	79
一、	若潮国体華々しく開催	79
二、	バスケットボール部全国三位入賞	80
第六節	創立三十五周年を迎えて	80
一、	創立三十五周年記念式典挙行	80
二、	室内温水プール落成	81
三、	食堂の完成	82
第七節	学院長中国訪問	83
第八節	全国一をめざして	84
一、	高校スポーツ界の名門校へ	84
二、	全国優勝への道 ——バスケットボール部——	86
三、	ハンドボール部の活躍	88
四、	水泳部の活躍	88
五、	昭和学院体育功労章の授与	90
第九節	表彰の荣誉に輝く	91
一、	学院長、私学教育功労者として文部大臣 表彰	91
二、	学院長、教育功労者として藍綬褒章受章	92

第十節 教育施設内容の整備充実 94

- 一、創立記念館改装 94
- 二、文化クラブ会館建設 95

第十一節 創立四十周年を迎えて 96

- 一、創立四十周年記念事業 96
- 二、創立四十周年記念式典挙行 99

第五章 教育内容の多様化と充実期

第一節 国際化時代を迎えて 102

第二節 スポーツクラブの躍進 103

- 一、バスケットボール部二冠に輝く 103
- 二、軟式庭球部初の全国制覇 104
- 三、ハンドボール部の活躍 105
- 四、水泳部・陸上競技部・ソフトボール部の活躍 105

第三節 福祉活動の推進 106

第四節 多様な教育の発展 107

- 一、視聴覚教育の発展 107

- 二、校内テレビ放送のカラー化 108
- 三、情報化教育の推進 108

第五節 創立四十五周年を迎えて 109

- 一、五号館新築落成 109
- 二、創立四十五周年記念式典挙行 110

第六節 教育環境の整備 110

- 一、視聴覚施設の整備 111
- 二、正面玄関の改造 112

第七節 第三十五回全国私学教育研究集会開催 113

- 一、二年間にわたる事前準備 113
- 二、視聴覚教育部会の開催 115
- 三、図書館教育部会の開催 118

第八節 教育内容の充実に向けて 118

- 一、中高一貫教育の充実 118
- 二、教育研修活動の活性化 119

第九節 学院長中国への旅 —— 第九回千葉県私学日中友好訪中 —— 120

第十節 学院長五度目の文部大臣表彰に輝く 121

第十一節 スポーツクラブ全盛を極める 121

一、バスケットボール部連続全国優勝の快挙 122

二、ハンドボール部初の全国制覇 123

三、堂々の優勝パレード 123

第十二節 昭和から平成へ 125

一、昭和天皇崩御 125

二、学院長大喪の礼に参列 125

第十三節 学院長叙勲の荣誉 126

一、勲三等瑞宝章に輝く 126

二、叙勲祝賀会開催 126

三、叙勲雑感
——叙勲の荣誉に浴して—— 130

第十四節 創立五十周年を迎えて 136

——相次ぐ記念事業——

第十五節 創立五十周年記念式典举行 142

一、わが学びやぞいやさかゆ 142

二、記念祝賀会開催 147

第十六節 多大な功績を残して 148

一、学院長千葉県私学団体連合会会長を退任 148

二、私の歩んだ私学の道 148

第六章 中高の限りなき前進を求めて

第一節 第二体育館・中ホール完成 154

一、第二体育館改装 154

二、秋の二大行事 155

三、進路指導の発展 156

第二節 学院長先生胸像建立 157

一、交換留学生 157

二、学校週五日制実施 157

三、第四回千葉県私学教育研修集会（理科） 158

四、胸像建立 158

五、自分らしさの読書を求めて 159

六、理事長室完成 159

七、精選激戦の大学入試 160

第三節 学院紹介映画「理想に燃えて」完成 160

一、バトン部世界大会へ 161

二、「理想に燃えて」完成 161

三、私学教育功労賞 161

	四、車椅子を寄贈	162		三、教育活動の成果	179
	第四節 伊藤友作先生、市川市名誉市民章受章	162		第九節 玄関ホール・二号館・三号館大改装	180
	一、市川市名誉市民章	162		一、玄関ホール改装	180
	二、市川市名誉市民顕彰碑建立	164		二、活躍する運動部	181
	三、フィギュアスケート初優勝	164		三、教育活動の実践	181
	四、ボランティア活動	165		第十節 創立六十周年記念	183
	第五節 創立五十五周年記念	165		一、創立六十周年記念事業	183
	第六節 学院長先生「傘寿の会」	171		二、各運動部の活躍	184
	一、傘寿の会	171		三、教育活動の成果	184
	二、室内温水プールの整備	172		第十一節 躍進続ける部活動	186
	三、中学校家庭科室・コンピュータ室	172		一、躍進続ける部活動	186
	四、書道教室・書道展示室	173		二、組織の変革	187
	五、中高運動部の活躍	173		第十二節 伊藤一郎先生御逝去	188
	第七節 日本学生科学賞文部大臣奨励賞受賞	174		一、揺るがぬ信念	188
	一、文部大臣表彰	174		二、女子校最後の部活	189
	二、文化面でも全国受賞に輝く	175		三、巨星墜つ	190
	第八節 高校本館大改装	177		第十三節 共学化一年目	190
	一、高校本館大改装	177		一、故伊藤一郎理事長を偲ぶ	190
	二、各運動部の活躍	178		二、偲ぶ会	192

	三、新時代の息吹	193
	四、男女共学化とフロンティアハイスクール	194
	五、悲しみを乗り越えて	195
	第十四節 共学化二年目	196
	一、コンベ審査会終了	196
	二、サッカーグラウンド完成	196
	三、ホームステイ再開	197
	四、子供観光大使	197
	五、金星の太陽面通過	198
	第十五節 「千葉きらめき総体」での 昭和学院旋風	198
	一、千葉きらめき総体	199
	二、初の県知事賞に輝く	201
	三、大町総合グラウンド	201
	第十六節 「新キャンパス計画」実現へ	202
	一、新地ニュージールランドに学ぶ	202
	二、千葉県私学教育研修集会	203
	三、新キャンパス計画の基本理念	203
	四、「銀櫂賞」受賞	204
第十七節	創立記念館移築工事「曳家工法」	205
	一、理事長就任祝賀会	205
	二、曳家工法	207
	第十八節 全中バスケットボール・新体操部 全国制覇	208
	一、全国制覇	208
	二、創立七十周年記念事業	210
	第十九節 新キャンパス計画完成	212
	一、新校舎での一年目	212
	二、高校二年・三年の校外教育	212
	三、新校舎での真間祭	213
	四、四年制大学への進学実績の飛躍的向上	214
	五、「新生昭和」のスタート	215